

地域の輪を広げよう

宮城県仙台第三高等学校 普通科

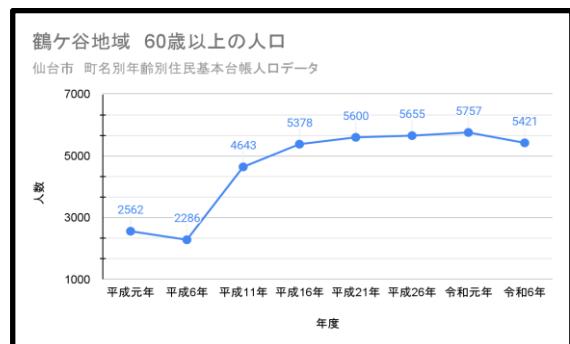
【要旨】

私達は高齢化社会における認知症・孤独死等の問題の解決に繋がる地域活性化案を考えた。調査の中で、高齢者には3つの層があり、その中でも地域の活動に興味がない層に対するアプローチが必要だということ。地域活性化には一過性の活動ではなく継続的な小さな活動が必要だということ。基本的なことだが、参加者の目線にたって企画すること。それらを踏まえ、私達はベンチを利用した地域活性化案と講話形式の地域活性化案を考えた。

【本文】

はじめに

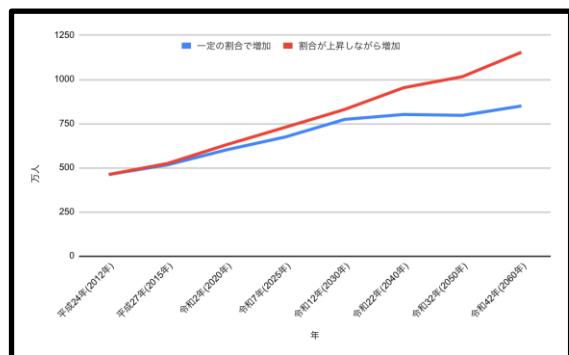
鶴ヶ谷地区は過去ニュータウン開発が行われ、人が集まり盛り上がった地域であった。しかし現在、鶴ヶ谷地区は超高齢化社会となっており、令和5年度における高齢化率が仙台市26.19%に対し鶴ヶ谷地区が37.12%となっている。高齢化社会は様々な問題を抱えており、認知症や孤独死などの問題が他の地域と比べ多くなる。それに加えて、地域の過疎化などの問題点も挙げられる。そのため私達は、鶴ヶ谷地区において高齢化社会の抱える孤独死や認知症などの問題解決に繋がる地域活性化活動を考えた。



1.活動の意義

そもそも地域活性化活動に意味があるのか調査した。下記のグラフは地域包括支援センターで調査した認知症患者の増加予想を表したもので、青色が一定の割合で増加、赤色が増加率が大きくなりながら増加したものになる。グラフから2040年にはおよそ150万人、2060年には300万人の差が現れ、認知症

患者増加の対策は今すぐにでも必要だと考える。



2.高齢化社会における3つの高齢者層

効果的な地域活性化活動を考えるため、鶴ヶ谷地域包括支援センター大久保さんに話を伺った。そこで地域社会において高齢者は1.元気な層 2.支援が必要な層 3.無関心な層に分けられると聞いた。元気な層は既に自らのコミュニティを確立している層であり、実際鶴ヶ谷地区では子ども食堂やサークル活動など高齢者が中心となった活動が行われている。支援が必要な層とは、重度の認知症や身体的な障害があったりなどで既に行政などから様々な支援を受けている層である。そして無関心な層とは、身体的な制約がある訳ではないが、地域での活動に興味がなく、所属しているコミュニティが少ない層である。この無関心な層はコロナ禍におけるステイホームなどの風潮により、より一層増えたと大久保さんは語る。

無関心な層は外部の活動に興味がないため認知症になる確率が高く、また緊急時に対応し

てくれる人の繋がりや施設が少ないなどの問題点を多く抱える。そのため私達は認知症や孤独死などの問題を解決する目標のため、この「無関心な層」を対象に地域活性化活動を行っていくと考えた。

3.効果的な期間

効果的なイベント期間を考えるため、鶴ヶ谷市民センターの館長さんに話を伺った。そこで地域活性化のためには小さい活動を継続的に続けることが必要だと聞いた。年に数回夏祭り等の大きな活動を行うとすると、活動を行う期間は地域が盛り上がるが、その盛り上がりは直ぐに消える。一方、小さい活動でも継続的に行うことで、人と関わる回数が増えコミュニティ形成の後押しとなる。そのため、地域活性化には一過性の活動より小さい活動でも継続的に活動出来るものが有効だと考える。

4.大阪府高齢者大学校における調査

高齢者が中心となる活動には何があるのか調査するため、大阪府高齢者大学校の井本さんに話を伺った。大阪府高齢者大学校では高齢者の生涯学習の支援をしており、講座の開催やクラブ活動などを行っている。井本さんは地域活動には様々な形があり、自分達が自ら社会に飛び込むプッシュ型と自分達の輪の中に人を呼び込むプル型の2つがあると語る。また地域活動において主催者がやりたいことだけ優先されてしまうことが多いと語っており、当たり前のことだが主催者目線の企画ではなく参加者の目線で何が必要なのか考える必要がある。

5.考察

abstract

Turugaya has many elderly people. Problems like lonely deaths and fewer residents are growing. We studied three groups of elderly: healthy, needing help, and not interested. The last group often has no connections. To help, we planned health talks and placed benches where people can meet and talk. This builds a stronger community. I want to do something meaningful as a high school student and help other areas in Japan with the same problems.

これまでの調査を踏まえて、私達は2つの地域活性化案を考えた。1つ目はベンチを利用したコミュニティ形成である。ベンチというのは人が休むために設置されており、自然と人が集まる場所となる。その中で挨拶や会釈等のコミュニケーションが発生すれば、コミュニティ形成のきっかけになると考える。また誰でも気軽に利用が可能なため、地域活動に無関心な高齢者でも容易に集めることができ、それに加え年中設置が可能なため、地域活性化に大きく貢献できると考える。2つ目は講話を中心としたイベントの開催である。特に防犯系や健康系の講話は高齢者に人気があるため、多くの高齢者が参加し、家の外に出てきてくれるを考える。

【まとめ】

今回高齢化社会における認知症・孤独死等の問題の解決に繋がる地域活性化案について考え、これらを効率的に達成するには、地域活動に興味がない人達をターゲットに活動を行い、より継続的に活動を続けられるものが必要だと考える。

しかし理想的な案を考えたものの、それらを実際の活動に移すことができなかつたため、後輩らの探求で引き継いでもらい実際の活動に移してもらいたい。最終的には高齢化が進んでいるこの日本で、鶴ヶ谷地域と同じように高齢化による認知症や孤独死などが問題となっている地域に対して、鶴ヶ谷地域の活動が良い前例となって欲しい。

参考資料

仙台市町名別年齢別住民基本台帳人口データ